

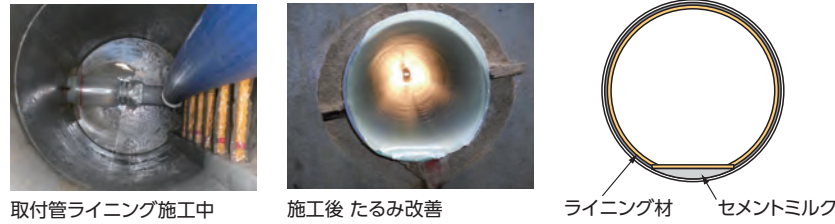
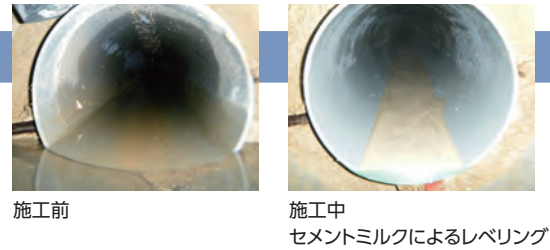
取付管ライニング

6 取付管ライニング …… たるみのレベリング修正

取付管ライニング φ200 t=3.5mm L=8.0m

状況 φ200VU管のたるみ30mmに、セメントミルクによるレベリングを行なう。

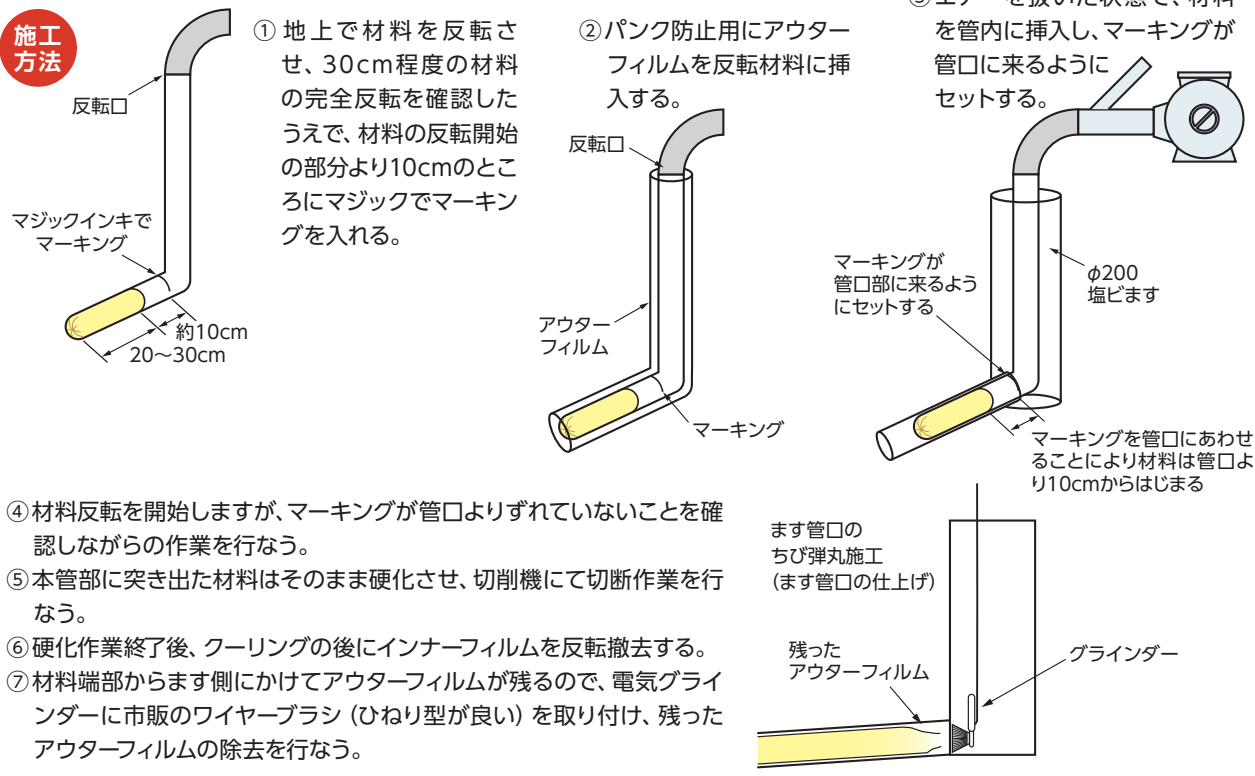
施工状況 セメントミルクでの修正後、取付管ライニングの施工を行なう。



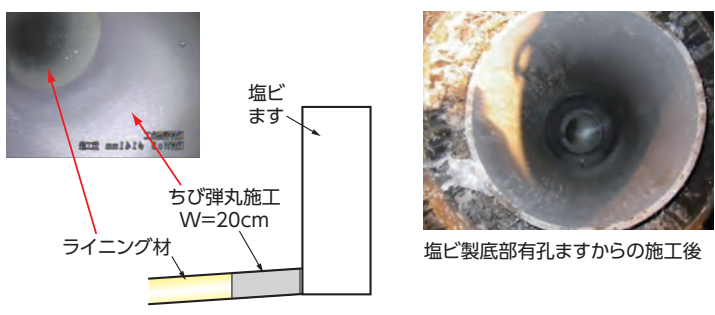
7 取付管ライニング …… 塩ビ製点検ますからの施工実例

φ200 塩ビますからの施工

施工方法



取付管材料の端部が隠れるようにちび弾丸の施工（光硬化 or 熱硬化）を行なう。



***なぜちび弾丸の施工が必要となるのか？**
 取付管ライニングの施工後、材料端部には、管体と材料間にアウターフィルムが存在し、その隙間に汚水等が入り込むために、端部処理が必要となってくる。
 通常の取り付けライニングのます管口部はモルタル仕上げ等となるが、塩ビ製ますの場合、更生管の切断をすると、ますに傷が入り、管口仕上げも不可能なため、ちび弾丸の施工を行なうことによって、管口処理となる。

8 取付管ライニング …… 工場排水管の施工実例 (φ200 L=25m)

状況

工場内の狭い場所や小さなますからますへの管きよのライニングは、通常の更生工法では対応できない場合があります。当工法の取付ライニングでは、反転工法だけでなく、形成工法による引き込み方式の施工も可能です。また、15m以上の長い延長材料については、**ソフトケーブル**と**牽引機**を使用しての硬化作業が可能です。
 (注意) 当工法にて使用しているライニング材料は、耐薬品性に優れたビニルエステル系樹脂を使用しておりますが、工場の排水管等については、ライニング材料に影響を及ぼす場合があるため、流れる排水の特性を調べて頂く必要があります。

対策施工例

ますの大きさ 40cm×40cm 深さ1.0m φ200 L=25mの施工実例



9 取付管ライニング …… 異径管の更生

状況

φ200陶管の雨水管を他工事の開削時に破損。φ150塩ビ管を差し込んで外側にモルタル巻きでの補修を行っていたことが、調査時に判明。依頼主には、φ200用材料での更生については、φ150部分の材料シワによって、インナーフィルムが除去できない可能性がある前提での施工を了承して貰い、施工を行った。

対策施工例

200⇔150⇔200⇔150と、異径管の連続となっており、破損部より下については、異常がなかったため、φ200の破損部が隠れるように、途中までのライニングを行った。

***φ150塩ビ部分に材料の縦じわが入り、インナーフィルムの一部が残ったが、事前に発注者の了解を得ていたため、問題にはならなかった。**

